

第29回(通算2645回) 例会記録 2015年1月28日(水)

- 司会進行/ 名渡山 秋彦
- ロータリーソング/ 手に手つないで・四つのテスト
- 会員卓話/ 小林 昌道氏
- ビジター/ 澤田 善吉氏(岐阜城 RC)
- メイクアップ/ 大濱 達也・上原 晃子(計2名)

出席報告

会 員 総 数	36名
出席義務会員	35名
出 席 数	25名
欠 席 数	10名
出 席 率	71.43%
通算出席率(1月)	69.29%

本日のニコニコ

	収 入	累 計
ニコニコBox	¥6,000	¥118,000
コイン Box	¥2,284	¥63,523
合 計	¥8,284	¥181,523

😊 1月19日今期の粗糖製品関内製糖に初出荷(1500t)。皆様のご協力に感謝いたします。

(加納 成浩)

😊 今年も石垣島マラソン完走出来ました。

(南波 正幸)

😊 88才・100才の伝達式昨日無事終わり、100才の方が大変元気でした。

(小林 昌道)

😊 石垣島マラソン完走。応援ありがとうございました。

(名渡山 秋彦)

会長挨拶:上原 秀政



こんにちは。昨日八重山毎日新聞の比嘉さんがきて、インフルエンザについて取材したいという事で、話をして写真を撮らせてくれと、私は三面にでも載るのかなと思ったら一面に、トップに出

ていました。現在インフルエンザがかなり流行っています。全てA型なんですけど、予防するにはうがいと手洗い、単純明快でそれしかありません。そして出来ることなら、私たち医療関係者は帰って風呂に入って、頭から足の先までウィルスを全部流すことを心掛けて、そして十分に睡眠をとる、ストレスをためないということが大事です。会員の皆様におかれましては、十分に気を付けてインフルエンザにならないように、なってもいい薬がありますので、早急に医療機関にかかって下さい。次的小林さんの話が楽しみですので、以上で終わりにしたいと思います。

委員会より

◎大浜 一郎氏

皆様こんにちは。去った23日に台北の大同RCへ行ってまいりました。年末から忘年会からするから来いと何度も連絡をもらっていましたが、行けなくて、では新年会に行きましょうということになりました。3月に周年があるという事で、打合せを兼ねて行ってまいりました。3月26日が周年だそうです。31周年でありますので、ご都合のつく方はぜひいらっしやっただきたいという事でした。宮城早人さんと漢那憲隆さんと行きましたが、夕食の席でPPの席はここだと、漢那憲仁と書いてありまして、勘違いされていまして、急きょネームプレートに息子と書いて、メイン席に彼は座っていました。あと1年くらいすれば必ず入らざるを得ない、予行演習になったろうと思います。連日夕食会を催して頂いて、翌日は箱根RCの皆さんと一緒にする機会もありました。また、台北直行便が再開される4月以降、皆さんが訪れると思いますので、その時には盛大にお迎えしたいと思います。台東に行くという話はお聞きしておりますが、大同RCの周年とどのようにリンクできるのか、日程の調整を打合せしたいと思いますので、その時は皆さんよろしくお願い致します。

◎仁開 一夫氏

1月14日ガバナー公式訪問でしたが、私、翌日たまたま那覇に行く用事がありました。夜の懇親会がガバナー、那覇東、浦添、宜野湾RC、根路

銘さんを中心にありましたので、参加してまいりました。その時に浦添RCの会長、喜納さんが既に7名入会させたと、今年は増員9人にするとおっしゃっていました。同じ浦添に女性の方が入ったんです。那覇市立病院のドクターで、水曜日は年休を取って、それでロータリーの例会に出席しているということでした。考え次第だなどと思いました。ご報告致します。

会員卓話:小林 昌道氏

～テーマ「あたりまえの幸せ」～

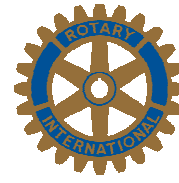
今日のテーマは「あたりまえの幸せ」という事で、普段皆さん空気があり、水があり、太陽があり、これを当たり前のようにしておりますが、これがちょっとでも空気がなくなったときの事を考えてみて下さい。パニックになって、大変な事です。

仏教界では菩提和讃というお経の和文の経典があります。その中の迷いと悩みのあるから、逆に心が磨かれるという事で、悩みを持っていない人はおりませんし、人は必ず迷う生き物です。それを素直に認めるという事が大切です。決して恥ずかしいことではないわけです。試行錯誤を繰り返しながら、より良い人間生活をする事を修行とも呼ぶわけです。それでも不安や心配に苛まれて、生きるための気力を失いかけることがあります。その時に暗がりの灯火、明かりを差してのべるのがお経というわけです。菩提和讃、お経の文句があります。悟りの境地、極楽往生をすること、それを菩提といいます。悟りという事でございます。とにかく頭に血が上って、気持ちが悪れている時、そういう時は、絶対良い事はないわけです。良い事も浮かばないと、またそういう時は他人と衝突したり、ついつい良くない言葉を発したり、自分を見失ってしまう。そういう時に冷静に、全てどうすれば物事を見て取れるか、穏やかな心を育てていくことが幸せの基本じゃないかと思うわけです。日常は、いろんな出来事に感情を左右されます。しかし周囲の全ての物事は実態というよりも現象であるわけですから、あくまでも心の働きのわけです。結局害虫、益虫とかありますけど、これも人間の都合なんです。てんとうむしを例にすれば、肉食の七星てんとうというのがあって、アブラムシとかカイガラムシを食べられるんですが、そして草食性のミンジャヤーホ

シてんとうというのは、ウリ科の植物を食べる、これは害虫なわけです。そういうふう人間が良い虫、悪い虫を、自分たちは精一杯まっとうしているわけですけど、そういう人間同士なら人それぞれで価値観がありますけど

次に、年をとるほど親のありがたさが分かるという、子を持って初めて知る親の恩というのは、結局おむつが取れない頃に、両足を掴んでおむつを下に敷いて、ふっと気が付くわけです。自分もこうしておむつを交換してもらっていたはず。昔のおむつは綿のおむつで洗って使うわけです。そしてまたそれを干して、たたんで、そういう両親に感謝しなければと、その時になって気付かせてくれる。それも子供に感謝するというわけです。昔から父の恩は山より高く、母の恩は海より深しとあります。父親は威厳のある山に例えられます。母親は海のように広く優しく深いというわけです。

禅宗の中で有名な俊董さんという尼さんがおります。5才の時にお寺に入門しまして、15歳で出家をするわけです。それ以来ひたむきに道を求めてまいります。今日本を代表する尼さんの1人でございます。愛知県にあります尼さんの専門の修行道場、専門尼僧堂で堂長をしております、全国を飛び回っているいろんな話をしているわけでございます。その青山俊董さんが言うには、私たちはたった一度の人生をどのように生きて行けば良いか。相手を気に入る、気に入らないに関わらず、全てに我が子に注ぐような心で接しなさいと。教育の世界、ペスタロッチ賞をもらった東井義雄先生、兵庫県出身の先生がおられまして、その東井先生の話がいつも思い出すというわけです。その頃小学校の校長先生で、あの頃から学校の給食が行き届いて、お母さんのお弁当を頂くことがだんだん減ってしまっていて、それを残念に思っておいででした。お母さんの手作りの弁当をいただく機会は数えるくらいになってしまいました。運動会の日には子供たちがどんなお弁当を持って来ているか、みんなの弁当を見て歩いたら、何人かは店屋物とかお店で買ってきた弁当で、先生はそれを残念に思われていました。間もなく修学旅行のパンフレットが回ってきまして、「1食、弁当を持参」と書いてあった。そして東井先生は全部のお母さんに手紙を書かれたわけです。「1食の弁当持参というのは、毎日忙しくもあり、また疲



THE ISHIGAKI ROTARY

(今月のロータリーレート 1ドル118円) WEEKLY REPORT No. 2544



国際ロータリー会長テーマ

ロータリーに輝きを

Light Up Rotary

ゲイリーC. K. ホアン

石垣ロータリークラブ会長テーマ

真・善・美

2014-15 年度会長 上原 秀政

創立記念日 1962年3月12日 (54周年)

れているだろうけど、30分早く起きて、ご飯を炊いて、しっかりとおむすびを結んで、そしてどんな気持ちでおむすびを結んだか、その気持ちを手紙に書いて、持たせてくれ。」そしてその日引率の先生方も手作りのおむすびを持って来たわけです。修学旅行の第1日目は、当時大阪空港の見学で屋外での食事になったわけです。みんなどんなふう食べるのかなと、先生は眺めておりましたら、弁当を開いたらお母さんの手作りのおむすびが入っていて、手紙が添えてあったわけです。みんな躍り上がって喜ぶわけです。そしたら東井先生の横にいた森木くんという少年がいて、お母さんの手紙をお守りのように内ポケットにしまって、東井先生が「先生にもその手紙を見せてくれや」と言うと、森木君は勿体なさそうに手紙を出して「あげるんちがうんやで、ちょっとだけ見せてあげる」と先生に見せてくれて、その少年が後で作文に書いたわけです。『お弁当の包みを開いたら、お母さんの手づくりのおむすびが出てきた。お手紙が添えてあった。それを読んだら、うれしくて涙がこぼれた。夜、寝るとき、もういっぺん出して読んだ。お母さん、一日無事終わったから、安心しておくれ。明日も気をつけていくからね。おやすみ。』とお母さんとお話しているわけです。おむすびというのは親と子の心を結ぶおむすびなので、そういうところに心の断絶はないと東井先生はおっしゃるわけです。

もう1人めぐみちゃんと言う女の子は、こういう作文を書いてくれたわけです。『おむすびの包みを開いたら、お母さんの手作りのおむすびが出てきた。お手紙が添えてあった。それを読んだら涙が出てきた。気がついてみたら、私の着ているこのお洋服は、お母さんが忙しい合間をぬって、一針一針縫ってくれた手づくりだ。襟元の花模様の刺繍も、お母さんが一針一針、刺繍してくれたと気がついた。百五十人のお友だちの多くは、ほとんどお店の既製服。それに比べたら、ちょっと不恰好だけれど、一針一針お母さんが心を込めて縫ってくれたと気がついたとき、私は百五十人のクラスの中で、一番幸せな子だと気がついた。私もお母さんになる日が来たら、お母さんのようなお母さんになりたいと思います。』このようにお母さんのお母さんになりたい、またお父さんのようなお父さんになりたいと、そういうふうに胸を張って言える子は最高に幸せな子供じゃ

ないかと思います。カロリー計算をして、ただ食べさせれば子供の身体は育ちますが、心はカロリー計算では育ちません。食べ物が少しくらい貧しくても、着る物が少しくらいボロでも、子供の心は歪みはしません。真心を食べさせなければいけません。という青山俊董先生の講話があったわけです。

あたり前の幸せ、あたり前に過ごしていますが、本当にあたり前ではなくて、自然に感謝して頂いて、皆さんと一緒に楽しく過ごせればいいんじゃないかと思います。

…例会風景…



会員卓話:小林 昌道氏



岐阜城 RC の澤田善吉氏がご来会くださいました。



●アサヒナキマダラセセリ(セセリチョウ科)

5月の一時期だけ発生します。八重山諸島の固有種で、氷河期からの遺存種です。黄金色に輝く個体にはビックリさせられます。

例会日 水曜日 12:30~13:30
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
 TEL/FAX 0980-83-2917
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
 E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

会 長 : 上 原 秀 政
 副 会 長 : 新 賢 次
 幹 事 : 白 道 直 行
 副 幹 事 : 宮 良 薫
 S A A ・ 出 席 : 渡 久 地 明
 情 報 ・ 会 報 : 玉 城 守 雄